

# 第4回 和泉市総合教育会議

令和7年11月13日

# 本日の内容

1. 第3回総合教育会議のふり返り
2. コミュニティ・スクール研修実施報告
3. コミュニティ・スクールファシリテーターについて
4. 和泉市版コミュニティ・スクールガイド（市民編）に  
盛り込む内容について

# 1. 第3回総合教育会議のふり返り

# 第3回総合教育会議のふり返り①

## 和泉市版コミュニティ・スクールガイド

①コミュニティ・スクールについて  
まず学校の教職員の理解をさらに深め、その上で地域や保護者によりわかりやすく伝えることが必要

- ◇まずは、学校の管理職、地域連携担当教員の理解を深めることから始める  
令和7年9月10月に、文部科学省が指定するコミュニティ・スクールマイスターを招聘し全管理職、地域連携担当教員向けの研修を実施
- ◇地域教育協議会との違いをはっきりさせる
- ◇様々な地域のコミュニティ・スクールの事例を ロールモデルとして収集

②学校ごとに自由にテーマを設定できることと学校や地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールの在り方を示すことが必要

- ◇学校運営方針の伝達に終始するのではなく…学校の強い願いや切実な課題意識をもとに特色を生かしたテーマを決めることが可能  
(例)
  - 地域の課題を解決するための具体的なアイデアを出すなどの探究学習
  - 子どもたちが安心安全に過ごすための学校の環境整備
  - 子どもたちの主体性を高めるためのルールメイキング
  - 自己有用感・自己肯定感の低さを高めるためのポジティブ行動支援
  - 屋外で遊ぶことが少なくなっている子どもたちの体力を向上させる取組みの推進

③コミュニティ・スクールの委員構成についてさまざまなパターンがあることを具体的に示すことが必要

- ◇校長の学校運営方針を承認するための固定的なメンバー  
(例) ○町会関係者 ○地域教育協議会関係者 ○PTA役員
- ◇学校が決めたテーマに沿ったメンバー  
(例) ○大学教授 ○NPO職員 ○経営者 ○企業の社員 ○弁護士 ○スポーツ選手 ○自治体職員 等  
→地域を広義に捉え、エリアにとらわれずテーマごとに毎年変えて良い

文部科学省のCSマイスターにも関わっていただき  
「和泉市版コミュニティ・スクールガイド」を作成

時間をかけて段階的にコミュニティ・スクールをより良いものに

## 第3回総合教育会議のふり返り②

### 和泉市版コミュニティ・スクールガイドに盛り込む内容案

- ① ・コミュニティ・スクールとは
  - ・年間活動スケジュール例
  - ・PTAや地域教育協議会等との関係性
- 
- ② ・コミュニティ・スクール導入で期待される効果
  - ・コミュニティ・スクールで行う活動
  - ・テーマ型コミュニティ・スクールとは
- 
- ③ ・学校運営協議会委員のイメージ

### 和泉市版コミュニティ・スクールガイド作成スケジュール

- |            |   |
|------------|---|
| 9月～<br>10月 | コミュニティ・スクール研修の実施<br>コミュニティ・スクールガイド案の作成    |
| 11月～<br>2月 | 第4・5回総合教育会議で案を示し<br>ご意見をいただく              |
| 3月         | ガイド完成、各学校、PTAや地域団体に配布<br>市ホームページ、広報いすみに掲載 |

## 「いすみ未来サポーターズ」ブック

④「学校を支援したい事業者」と「事業者に支援してもらいたい学校」をつなぐ仕組みが必要

「いすみ未来サポーターズ」ブック  
(学校支援事業者リスト) の作成

学校  
必要な協力を  
事業者に求めやすくなる



事業者  
(いすみ未来サポーターズ)  
学校へアプローチする  
チャンネルができる(CSR)

「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」の理念が達成されていく

### 「いすみ未来サポーターズ」ブック作成スケジュール

- |           |  |
|-----------|--|
| 9月<br>10月 | 校長会にて周知(CSマイスターによる研修、アンケート実施)<br>学校が事業者に支援してほしい取組み<br>学校が必要とする事業者を整理 |
| 2月        | 「いすみ未来サポーターズ」ブックのイメージについて<br>第5回総合教育会議でご意見をいただく                      |
| 令和8年度中    | 「いすみ未来サポーターズ」ブック作成を委託  |
| 令和9年4月～   | 「いすみ未来サポーターズ」ブック運用開始   |

# 主な質問と意見

## 和泉市版コミュニティ・スクールガイド

具体例を示すことで型にはまってしまわないよう、和泉市らしい取組みをすることで型を破っていきたい。

地域や事業者が授業支援にどこまで関わっていいのか分からぬといった課題や、学校が従来すべきことを任せているように見られるのではないかという懸念に対して、よりどころになる記述があつてもいい。

【事務局(教育委員会)回答】学校が授業支援をしてもらうイメージができるような好事例をガイドブックに記載していきたい。

今まで学校がやってきた「数値や偏差値」重視の失敗を許さないような教育ではなく、探究して課題に取り組み、行動して議論していくことがコミュニティ・スクールらしい授業であることを強調していくことで、保護者に共感してもらいやすく、理解してもらいうやすくなるのではないか。

【事務局(教育委員会)回答】本市の授業改善のテーマも、探究や、議論といった、協働的な学びに向かっており、コミュニティ・スクールとうまく組み合わせながら、地域と同じ方向を向いてこどもたちを育っていくことが大事。

地域教育協議会と学校運営協議会がどう違うのかをはっきりさせたうえで、取組みの課題や事例を中心に整理してはどうか。

【事務局(教育委員会)回答】これまでの学校協議員制度は地域の方が学校に対して意見を述べる場であったが、和泉市版コミュニティ・スクールは学校の願いに対し、地域だけでなく、そのテーマに精通した専門家を呼んで議論していく形にしたいと考えている。

地域の人が集まって好事例を出し合い、互いに学びあう場があればいい。

【事務局(教育委員会)回答】今年度は、教職員がしっかりコミュニティ・スクールを理解したうえでコミュニティ・スクールガイドを作り、次年度、委員や地域の方々を対象とした研修やお互いのよさを知る交流の場が持てるようにと考えている。

専門家の中に保護者が入ると意見しにくいといった話も聞くので、会話がしやすいような配慮をしてもらえるとよい。

【事務局(教育委員会)回答】地域の方が専門委員の前でも意見を言いやすいようにコーディネートするのが管理職の役割であると思うので、研修やコミュニティ・スクールガイドの中で伝えていきたい。

学校教育だけではなく、地域教育や家庭教育が非常に重要で、これらをカバーし、良いものにしていくのがコミュニティ・スクールの役割。

## 「いずみ未来サポートーズ」ブック

ことの授業参観の際、特別な休暇を認めてくれるような会社が出てくるなど、職場体験への協力だけではなく、サポートーズの範囲を広くとらえていきたい。

事業者をどう募集し、どう活用していくか教えてほしい。

【事務局(教育委員会)回答】事業者を集める際には、やみくもに事業者に声掛けても無駄になるため、学校のニーズをとらえ、商工会議所等に協力を求めていきたい。どう使っていくかは具体的にサポートーズブックに記載するとともに、連絡先を記載し、直接学校と事業者が関われるようにないたい。

事業者一覧のようなものをイメージしていたが、SNSで実施したことを発信できるようなチャンネルでもいいのではないか。

【事務局(教育委員会)回答】出口としてのチャンネルは検討したい。

NPOや子ども食堂など幅広くつながるものにしてほしい。

【事務局(教育委員会)回答】入口の発想が和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例に基づいていたことから民間企業を想定していたが、協力したいと言ってくれる様々な団体とのつながりも入れていきたい。

毎年募集し、リストを更新していくような制度設計が必要。

【事務局(教育委員会)回答】風化させてはいけないと思っているので、定期的に事務局にて更新していきたい。

職場体験においてどのような体験ができるか情報を多くの方が分かるようにしたほうが風通しがいいのではないか。

【事務局(教育委員会)回答】より広く知ってもらうことが目的だと感じているので、情報発信の工夫をしていきたい。

協力してもらおうと思うと、和泉市や和泉市教育委員会の本気度が問われる。熱い思いをしっかりと伝えていけるようにしていってほしい。

## 2. コミュニティ・スクール研修実施報告

# コミュニティ・スクール研修実施報告

## 第3回総合教育会議で議論いただいた

①コミュニティ・  
スクールについて  
まず学校の教職員の  
理解をさらに深め、  
その上で  
地域や保護者に  
よりわかりやすく  
伝えることが必要

- ◇まずは、学校の管理職、地域連携担当教員の理解を深めることから始める
- 令和7年9月10月に、文部科学省が指定するコミュニティ・スクールマイスターを招聘し全管理職、地域連携担当教員向けの研修を実施
- ◇地域教育協議会との違いをはっきりさせる
- ◇様々な地域のコミュニティ・スクールの事例をロールモデルとして収集

を踏まえ、和泉市コミュニティ・スクール研修会を実施

# コミュニティ・スクール研修実施報告

- ▶ 実施日時：令和7年9月24日（水）10月8日（水）
- ▶ 対象：和泉市立学校の校長・副校長・教頭・地域連携担当教員
- ▶ 参加者：76人(対象者79人中)
- ▶ 講師：大門 和喜 氏

文部科学省CSマイスター

千早赤阪村教育長（R7.4～）

前府立富田林中学校・高校 校長

元大阪府教育庁主任指導主事

- ▶ テーマ：「コミュニティ・スクールの推進とその未来～  
産官学協働による社会に開かれた教育活動の実践～」

# コミュニティ・スクール研修実施報告

今回のコミュニティ・スクール研修では、  
第3回総合教育会議の内容を踏まえ

①コミュニティ・スクールについて  
まず学校の教職員の理解をさらに深め、  
その上で  
地域や保護者に  
よりわかりやすく  
伝えることが必要

②学校ごとに自由に  
テーマを設定できる  
ことと  
学校や地域の  
特色を生かした  
コミュニティ・  
スクールの在り方を  
示すことが必要

③コミュニティ・  
スクールの委員構成について  
さまざまなパターン  
があることを  
具体的に示すことが  
必要

上記3点について共通理解を図ることを目標とした

# コミュニティ・スクール研修の内容

## ①コミュニティ・スクールについて

### 「コミュニティ・スクールの理解促進」について

- ・子どもをとり巻く環境が急速に変化している…
- ・子どもたちが予測の難しい社会を生きぬく力につけるために、学校教育の変革は急務

学校だけでは解決が難しい…



学習指導要領の理念  
「社会に開かれた教育課程」

コミュニティ・スクールは、

学校・家庭・地域等が同じ目標を共有し、  
教育課程を介して協働するためのツール

### 「コミュニティ・スクールと地域教育協議会の関係」について

コミュニティ・スクールで共有した目標を達成するために教育課程を介して協働する  
団体の「ひとつ」が地域教育協議会

# コミュニティ・スクール研修の内容

②学校ごとに自由にテーマを設定できることと学校や地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールの在り方を示す

府立富田林中学校・高校における「テーマ型コミスク」の実践例をもとに

(1) 学校が子どもにどんな力をつけたいのかといった「課題」を明確に！

子どもに育みたい力

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献できる人材の育成」を探求学習を通じて力をつけていく

(2) 共有した「課題」の解決方法を委員が熟議！

委員が、学校と企業・行政・大学・NPO・地域等をつなぐ

# コミュニティ・スクール研修の内容

③コミュニティ・スクールの委員構成についてさまざまなパターンがあることを具体的に示す

府立富田林中学校・高校における「テーマ型コミスク」の実践例をもとに

## (3) 協働活動、委員は地域に限定されない

出前授業に15社、企業訪問に27社  
産官学協働による教育活動

弁護士・スクールカウンセラー・  
スクールソーシャルワーカー・大学教授・  
企業・精神科医・卒業生など



普段の授業では学べない「起業のリスク、  
事業の拡大」など学ぶ貴重な機会となり、  
今後の進路や仕事を考えるきっかけに！

# コミュニティ・スクール研修アンケートより

## ▶ 「新たな気づきや学び、自校で取り入れたいこと」

### ① コミュニティ・スクールについて

- ・社会が大きく変わるなか、たんに意見を反映させるだけでなく、子どもたちが社会を生き抜く力(探求力)を育むために学校・地域が同じ目標でやることがわかった。「教育課程内にコミスクをコミットさせる」という言葉が印象に残った。
- ・学校運営協議会とは、学校の職員(主に管理職)にとって学校の取組みについて一方的に説明を求められ、それに対する一貫性のない(思い付きの)意見を伝えられるだけの場だと思っていたが、構成メンバーが実際に役割と一定の責任を負って実働し、学校運営にプラスのインパクトを与えるものになることは大変参考になった。
- ・今までコミスクは単なる会議だという認識だったが、子どもたちに必要な育成すべき力を身に付けるためのツールとしてコミスクがあることを知った。

### ② 学校ごとに自由にテーマを設定できることと学校や地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールの在り方を示す

- ・テーマ型コミュニティ・スクールの形を見せていただいたことで、市がめざす方向性を多くの人数で共有できたことが良かった。本校の探求学習において地域人材の活用は進んでいるが、こどもにつけたい力をつけること・学校教育目標を達成することに向けて、より柔軟に進めていきたい。
- ・テーマを絞って熟議することで、具体的な取組みにつながると感じた。学校として育成すべき力を明らかにし、委員との協働により育んでいきたい。
- ・現状はテーマ設定が曖昧なため「報告・承認」に留まり、熟議や課題解決にはつながっていなかった。探求学習を通じて社会とつながる機会を創出できるテーマ型コミュニティ・スクールは、子どもたちにとって必要な体験になると感じたので、まずはテーマを明確にしていきたい。

# コミュニティ・スクール研修アンケートより

## ▶ 「新たな気づきや学び、自校で取り入れたいこと」

### ③コミュニティ・スクールの委員構成についてさまざまなパターンがあることを具体的に示す

- ・委員選定と当事者意識をどう持つてもらうか思案していたが、テーマ型という視点をもらい、それぞれのテーマに基づいた人選でよいことがわかった。
- ・学校の戦略に合った人材を委員に加えていかないといけないと思った。
- ・校区・地域内の方からしか委員を選べないと思っていた。そうではないことが分かり、幅広く委員さんを選べることは非常にありがたい。



①コミュニティ・スクールについて  
学校の教職員の理解  
がさらに深まった

②学校ごとに自由に  
テーマを設定できる  
ことと  
学校や地域の  
特色を生かした  
コミュニティ・  
スクールの在り方が  
理解できた

③コミュニティ・  
スクールの委員構成  
について  
さまざまなパターン  
があることを知るこ  
とができた

# コミュニティ・スクール研修アンケートより

## ▶ 「現在の取組みにおいて悩んでいることや課題に感じていること」

- ・この課題に対してコーディネートしてくださる方がいるとすごく前に進むことができると感じました。
- ・学校運営方針の承認・その方針に基づいた具体的な計画を事前に考えられるコーディネーター的な役割があると、校長としてはありがたい。
- ・コミュニティ・スクールでは学校の切実な課題を伝えようとするが、どうしても「お願いベース」になり、委員の皆さんに当事者意識や一定の権限や責任を持ってもらいにくくなる。その時に、コーディネーターのような人が学校外の立場から伝えてくださると、より一層の「地域とともにある学校づくり」につながるのでないか。
- ・探究学習での取組みにおいて社会とつながることがとても大変だと感じています。今回のお話にあったようにコーディネーターの存在があればとても助かります。設置の実現にどのような費用や苦労があるのかわかりません。
- ・どうやってメンバーを決めるのか、どんな人にお願いすればいいのかを考えるコーディネーターのような人がいるといいなと思いました。
- ・打ち合わせや相談などをしっかりととる必要があると思うので、そこの不安はあります。それをコーディネートする人材は誰にも任命できるのかなど、課題があるかなと思います。



コミュニティ・スクールを円滑に運営し、  
協議したことを活動へつなげる「ファシリテーター」が必要

### 3. コミュニティ・スクール ファシリテーターについて

# コミュニティ・スクールファシリテーター

## ▶ コミュニティ・スクールファシリテーターの役割とは

学校の目標や課題の共有及び目標達成・課題解決をめざし、

- ・校長、教頭、地域連携担当教員との事前打合せ

- ・学校運営協議会のファシリテート 等

## ▶ コミュニティ・スクールファシリテーター設置のメリット

- ・校長自身が当日ファシリテートしないことで、校長と他の委員が同じ立場で議論できる

- ・校長が事前にファシリテーターに相談することができる

# コミュニティ・スクールファシリテーター

## ▶ コミュニティ・スクールファシリテーターの人選

- ・学校運営協議会委員の1人に依頼
- ・校長が自らの学校の目標達成・課題解決に資する人材を発掘

## ▶ コミュニティ・スクールファシリテーターへの謝金イメージ

回数にかかわらず年間3万円（原則、年間5回実施）

各学校運営協議会に1名を配置（30,000円×26コミスク=780,000円）

学校からファシリテーターに支出

学校研修費補助金により、和泉市教育委員会より補助

# <意見交換>

## 4. 和泉市版コミュニティ・スクールガイド (市民編) に盛りこむ内容について

## 市民向けガイドと教職員向けガイドの2種類を作成

### ▶ 市民向け（本日協議）

- コミュニティ・スクールの趣旨や意義、地域の役割をわかりやすく説明し、地域の理解を促進する
- 紙媒体(A4判パンフレット)により、幅広く市民に周知する

### ▶ 教職員向け（次回協議）

- 学校が実際にコミュニティ・スクールを運営・推進するために、コミュニティ・スクールの趣旨や意義に加え、実務的な手順や体制づくりのポイントを具体的に示す
- 電子媒体

- ▶ 何のためのコミュニティ・スクールか？
- ▶ 「これまで」と「これから」
- ▶ だれがコミュニティ・スクールの委員になるのか？
- ▶ コミュニティ・スクールの委員は何をするのか？
- ▶ 例えば…
- ▶ コミュニティ・スクールと地域教育協議会の違いは？

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ 何のためのコミュニティ・スクールか？

子どもたちは、これから予測が難しい  
社会で生きていかなくてはなりません

それにともない、  
子どもたちが社会を生きぬくための力が  
これまでとは変わってきます

そのため、  
子どもたちには、小学生・中学生の  
段階から、社会とかかわる経験が必要です

だからこそ、  
からの学校には、  
社会総がかりによる教育が求められます

社会総がかりによる教育を実現するために  
学校の目標・課題を学校・家庭・地域が  
共有するしくみである  
コミュニティ・スクールが必要なのです

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ 「これまで」と「これから」

### これまで…

保護者や地域の方々が、それぞれがそれぞれの思いをもって  
学校を支援してくださっていました  
(PTA活動、地域教育協議会、地域ボランティアの方々 など)

### その一方で…

それぞれの思いをよりひとつにし、「学校の目標・課題」と一層連携した学校支援を  
進めていく必要がありました

### そのために…

学校と保護者や地域の方々が一堂に集まって「学校の目標・課題」を共有し考える  
場を作ることにしました

### その場が…

「コミュニティ・スクール」です

### これからは…

コミュニティ・スクールを通じて、学校と保護者や地域の方々が  
「一緒に学校をつくる」当事者となり、同じ目標に向かって協働していきます

### これからも…

学校教育活動以外のイベント等については、PTA活動や地域教育協議会、  
地域ボランティアの方々に、主体となって実施いただければと考えます

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ► だれがコミュニティ・スクールの委員になるのか？

子どもや地域のことを

よく知る人

- ・保護者
- ・地域の人
- ・地域教育協議会の関係者  
など

学校の目標や課題の専門家

(地域外の人でもよい)

- ・大学教授
- ・弁護士
- ・企業の社員
- ・専門性をもつ  
他の学校の教員

学校の教員

- ・校長
- ・教頭
- ・地域連携を  
担当する教員

など

組み合わせはさまざま

「コミュニティ」とは、学校における目標の達成・課題の解決に向けて、子どもたちの学びや育ちに関わる多様な人々の集まりです。

それは、校区や地域に限定されたものではなく、学校の教育活動に関わるすべての人々が「コミュニティ」です。

委員は、学校の意見に基づき教育委員会が任命又は委嘱する。委員は15人以内で組織します。

ただし、対象学校の校長及び教職員を除き10人以内で組織します。

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ コミュニティ・スクールの委員は何をするのか？

年に原則5回委員みんなが学校に集まって話し合います

- ①学校の目標・課題について学校・家庭・地域がいっしょに話し合います
- ②学校の「目標をどう達成するか？」、学校の「課題をどう解決するか？」を話し合います
- ③学校の中だけではなく、地域や社会にある「人・もの・こと」をどう活用できるかについて話し合います
- ◎委員が、それぞれの立場で「したいこと」ではなく、「できること」を提案します

**熟議**

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ コミュニティ・スクールの委員は何をするのか？

それぞれの委員は、学校の目標達成・課題解決に向けて、それぞれの立場から役割を果たします

- ・ **保護者  
(PTA等)**

保護者の中で協力していただける方や団体に「つなぐ」

- ・ **地域の人  
(町会、自治会、地域教育協議会の関係者等)**

地域の方の中で協力していただける方や団体に「つなぐ」

- ・ **学校の目標や課題の専門家  
(大学教授、弁護士、企業の社員等)**

学校の目標や課題を解決できそうな方や団体に「つなぐ」

コミュニティ・スクールで共有した目標や課題に沿った活動を支援するため、さまざまな立場の委員が、自分が「つなぐ」ことのできる方や団体を紹介します

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ 例えさ…

### ①学校の目標・課題について 学校・家庭・地域が いつしょに話し合います

学校：「本校のめざす子ども像は「ききあう つながる 笑い合う」です。でも、自分に自信がない子が多いんです。」

PTA：「わかります。うちの子もそうです。」

地域：「人の役に立ったという経験も乏しいかも。」

学校：「毎年、2年生の九九を学習するときに、なかなか覚えられなくて、そのうち自信をなくしていく子が多いです。子どもたち一人ひとりの九九を聞くのも時間がかかりますし…」

PTA：「では、わたしたちが九九を聞きにいきますよ。都合のいい日時を言ってくれたら次のPTA協議会で呼びかけます。子どもたちを励ましながら、九九を聞きますよ。」

地域：「『みんなで育てる花いっぱいプロジェクト』を実施します。朝の時間や休み時間に子どもたちが水やりをするのをサポートします。育てた花は授業参観後に配布して、人の役に立つたという実感をもってもらえるようにします。」

民生委員：「毎月11日の朝のあいさつ運動に参加します。子どもたちといっしょに明るい雰囲気を朝からつけていきます。」

地域：「学校をきれいにします。地域教育協議会のメンバーで、学校や周辺の清掃活動をします。4年生の環境学習と関連付けて、授業内で実施します。」

### ②学校の「目標をどう達成するか？」

### 学校の「課題をどう解決するか？」

を話し合います

### ③学校の中だけではなく、地域や社会にある「人・もの・こと」をどう活用できるかについて話し合います

各活動の参加者は、めざす子ども像や課題に基づき、意識的に肯定的な声掛けを行います。学校が閉じた空間ではなく、地域社会とつながることで子どもたちの姿を変容させていきます。

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

## ▶ 例えば…

### ①学校の目標・課題について

学校・家庭・地域が  
いつしょに話し合います

学校：「本校の子どもたちは自分で考え、行動することに課題があるんです。」

地域：「たしかに真面目だけど、どこか大人しく…言葉で考えや思いを表現することも苦手な気がします。」

PTA：「わかります。うちの子に何を聞いても「ふつう」って言います。」

学校：「では、本校の目標を「自ら課題を見つけ、仲間との対話を通して解決する子の育成」にしませんか。」

PTA：「本校の子どもたちにぴったりだし、これからの時代に求められる力ですね。承認いたします。」

### ②学校の「目標をどう達成するか？」

学校の「課題をどう解決するか？」  
を話し合います

地域：「自然環境や産業に特徴のある地域だけど、その良さを知らない子が増えてきています。地域の自然や産業を活かせば、切実な課題意識をもとにした学習にできるかもしれませんよ。」

PTA：「PTAの中に田を貸してくれそうな人がいましたよ。一度、声をかけてみます。」

### ③学校の中だけではなく、地域や社会に ある「人・もの・こと」をどう活用できるかに について話し合います

地域：「林業に詳しい人が地域にいます。ゲストティーチャーとしてどうですか。」

地域：「10月の地域教育協議会主催の「〇〇っこ祭り」でブースを設置して採れた野菜を売るのはどうかな。」

# 和泉市版コミュニティ・スクールガイド～市民向け～

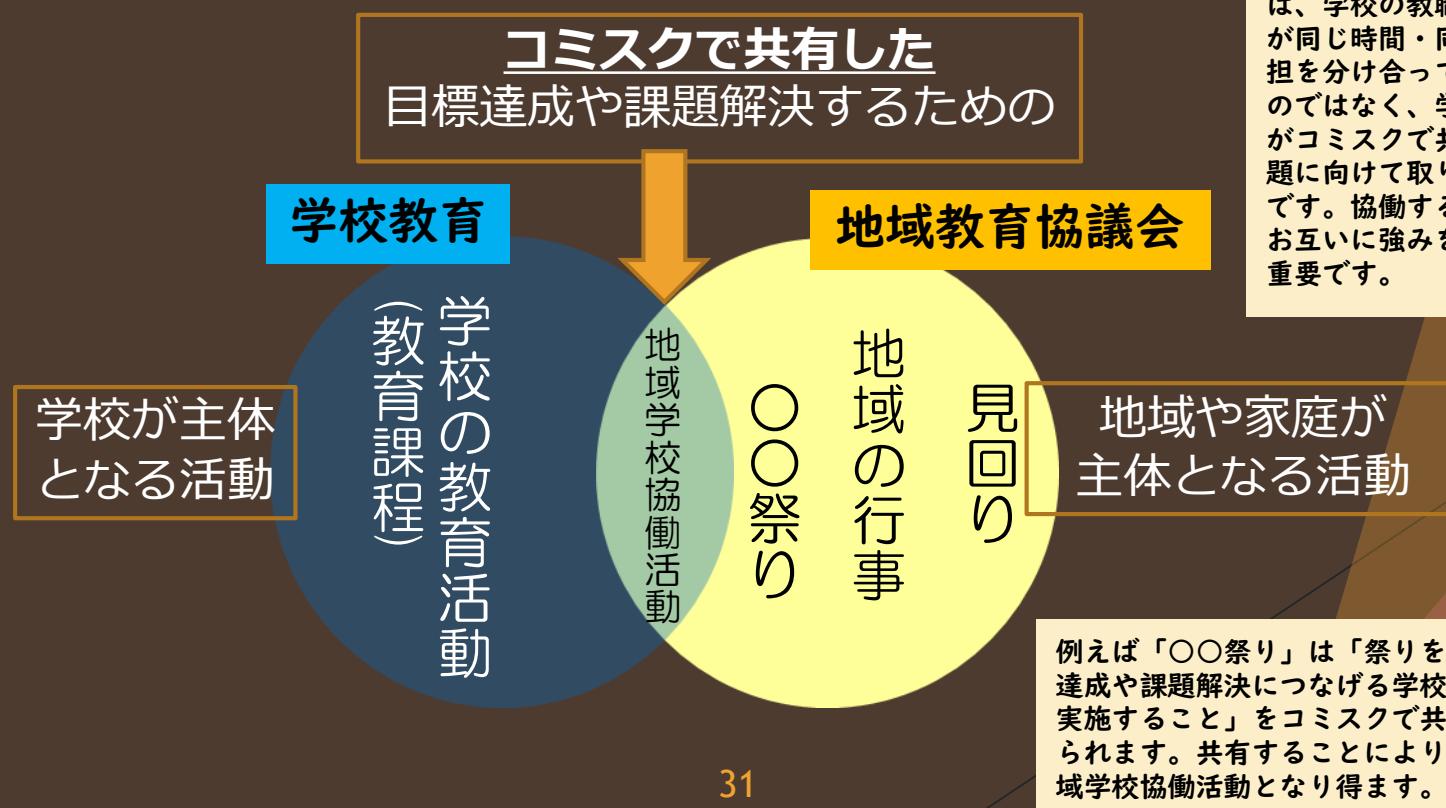
## ▶ コミュニティ・スクールと地域教育協議会の違いは？

### コミュニティ・スクール

**学校が**、子どもたちのこれからの社会を生き抜く力を育むために学校・家庭・地域等が目標や課題を共有し、目標の達成や課題の解決に向けて学校の教育活動（教育課程）の中でできる内容を話し合うしきみ

### 地域教育協議会

学校と**協働**できる団体のひとつであり、**地域の人たち**（地域・家庭・学校）**が**、地域の子どもを地域で育てる活動を行うしきみ



# <意見交換>